

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 Human Centric Intelligent Society	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境経営	グリーン調達	環境リスク最小化に向けた取り組み	社員への環境教育・啓発活動	社会とのコミュニケーション			

社員への環境教育・啓発活動

環境経営の推進には社員一人ひとりの意識向上と取り組みが不可欠であると考え、様々な環境教育・啓発を継続して実施しています。

包括的な環境教育の実施

富士通グループでは、3年に1回、全社員を対象に環境e-Learningを実施し、環境経営に関する基本的な理解を促しています。また、新入社員教育、幹部社員教育といった階層別教育のほか、設計開発、営業・SEなど部門に応じた教育も実施しています。さらに、環境業務を担当する社員に対しては、内部監査員教育や廃棄物実務担当者教育などの専門教育を実施しています。

環境教育体系

	新入社員	一般社員	幹部社員	経営層
一般教育	環境e-Learning (1回/3年)			
	階層別教育		階層別教育(新任)	
専門教育 (該当者のみ受講)	部門別教育(随時)			
	内部監査員教育			
	廃棄物実務担当者教育			
啓発	講演会、セミナー、研修会など			
	環境貢献賞・フォトコンテスト			
	Web、SNSによる情報提供			

社内表彰制度を通じた意識啓発

富士通グループでは、社員の環境意識の向上を図るため、グループ全組織と全社員を対象に、環境に貢献しているビジネスや活動を表彰する「環境貢献賞」と、環境の意識啓発につながる「環境フォトコンテスト」を1995年から毎年継続して実施しています。

2014年度の活動に関する環境貢献賞では、「製品・ソリューション・サービスの提供によるお客様・社会への環境貢献」、「社内の環境負荷低減」、「社会貢献活動」の3つの分野で多数の応募があり、「ベトナム・インドネシアにおける住民参加型災害情報共有システム」など3件が「環境大賞」として表彰されました。

環境フォトコンテストには世界中の富士通グループ社員から470作品が集まりました。このコンテストは作品の応募や投票を通して、社員がグローバルな視野で環境問題を考えるきっかけとなっています。

また、営業・SEを対象に、ICTによるお客様の環境負荷低減の推進を目的とした「環境特別表彰」制度を2008年度から実施し、顕著な活動を行った組織を表彰しています。

「環境大賞」受賞案件

- ベトナム・インドネシアにおける住民参加型災害情報共有システム**
ベトナム・インドネシア両国で課題となっている洪水対策として、河川管理員、住民などのスマートフォンから情報収集・情報共有する住民参加型災害情報共有システムを提供。(P.21参照)
- 部品リワーク技術適用による製品廃棄コスト低減**
技術的に困難な高密度実装の不良部品交換を、新規開発した複合加熱技術により局所的な部品交換(リワーク)を実現。携帯電話対応のリワーク技術および高多層基板対応のリワーク技術に応用して製品適用を実施。(P.42参照)
- 環境社会貢献～阿蘇の大自然の中で楽しもう～**
阿蘇の水源涵養機能の向上と生態系保全を目指し、広葉樹15,000本の植林と下草刈りなどのメンテナンス活動を実施。12年間活動を継続、毎回、総勢約160名規模での活動を実施。

環境フォトコンテスト最優秀賞作品「Lifecycle」

